

木道整備進む

これからの湿原保護活動として、湿原の重要性を認識してもらうための観察会や学習会が大切になります。

それには、まず現地に来ていただいて、景観のすばらしさ、多様な動物、植物の生育状況を知ってもらう必要があります。

湿原はぬかるんでいて歩きにくいところですので、運動靴でも気軽に散策できるように、湿原の入口付近と本部広場の奥から旧街道跡、氷室跡までの湿原周周辺部に簡易な木道を設置しました。



尾瀬ヶ原湿原の景観に似てきた猪の瀬戸湿原

使用した用材は環境保全に配慮して現地の間伐材を用いました。防腐剤の注入、塗布など加工していませんので、耐用年数などは未知数です

すべて手作りの木道ですから、豪雨で川が氾濫すればひとたまりもありませんが、資金の無い団体の会員が自らの汗を流して整備していることなど、観察会の話の材料にもなるでしょう。

この上を歩けば、踏圧による湿原への負荷を避けることも可能です。また、小学生でも安全に観察することができます。

特に、ぬかるみ状態のところや城島川、水口川など流れを横切るところは長靴でなくても歩けるように配置しました。

今年は、何回かの観察会が計画されていますので、指導される方にとっても好都合かと思います。

湿原を訪れた人が湿原の重要性を理解し、生物多様性を進める仲間となっていただければ、保全活動への意欲も一層高まります。



城島川の橋梁架け作業



歩きやすいように丸太の上に平板取り付け